

# 1. 評価結果概要票

作成日 2008年11月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671700254
法人名	社会福祉法人 健祥会
事業所名	グループホーム礼あり優あり
所在地	徳島県吉野川市鴨島町麻植塚字向麻山西196-1 (電話) 0883-26-1175

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年11月6日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)5年 9月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	21 人 常勤:20人、非常勤:1人、常勤換算:渦 6.5人、川 6人、剣 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費:6,000円、その他:実費
敷金	有( ) 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		900 円

### (4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科 石田歯科医院
---------	-------------

徳島県 グループホーム礼あり優あり

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺には畑や住宅、病院、中学校、商業施設などがある。職員は様々な研修で得た知識や技術などを活かして認知症ケアの質の向上に取り組んでいる。また利用者の希望や身体状況等に応じ、生活領域が広がるよう3ユニットの広さを活かして自由に行き来できるよう配慮するなど、柔軟な支援を行っている。外出支援も日常的に行われ、外食や買い物などを通して地域との交流、連携が深められるよう取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  前回評価での改善課題はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  自己評価の意義や目的を全職員に伝え全員で検討し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、職員などで構成されている。会議では支援内容や評価への取り組み状況について報告したり、参加者からの意見も取り入れ災害対策や緊急時の対応策について話し合われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  家族の意見や苦情、相談事は面会時や家族会の際に話してもらえよう働きかけたり、意見箱を設置したりして把握に努めている。また配布書類や掲示物に外部の相談・苦情受付窓口が明記されている。出された意見などは関係者間で検討し、サービスの質の改善に繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との携(関係項目:外部3)  ホームでの敬老会に地域の方を招待したり、地域の秋祭りなどに出かけたりして顔見知りの関係を築いている。地域からは中学生やボランティアの来訪などがある。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の下で・心と尊厳のある生活を・一人ひとりのニーズに対応した介護サービスを提供します」との理念をつくり、地域の中で利用者がその人らしく暮らせるよう支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に職員が理念を唱和し、全員で確認し合いながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの敬老会に地域の方を招待したり、地域の秋祭りなどに出かけたりして顔見知りの関係をつくっている。また中学生やボランティアの来訪などもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの評価の意義や目的を全職員に伝え、ケアの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、職員などで構成されている。会議では支援内容や評価への取り組み状況について報告したり、参加者からの意見を取り入れ災害対策や緊急時の対応策について話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修会や成年後見制度の勉強会に参加するなどして、市町村担当者や地域包括支援センター職員と連携しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、グループホームだよりとして「日中・夜間の様子、食事について、看護師だより、その他」の項目ごとに一人ひとりの状況を記載して報告している。また金銭管理状況についても家族に伝え、了解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情、相談事は面会時や家族会の際に話してもらえよう働きかけたり、意見箱を設置したりして把握に努めている。また配布書類や掲示物に外部の相談・苦情受付窓口が明記されている。出された意見などは関係者間で検討し、サービスの質の改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめている。またやむを得ない場合には説明を行ったり、十分な引き継ぎ期間を設けるなどして利用者への影響を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望にそってホーム内外での研修に参加できるよう配慮している。研修後には報告書を回覧し、職員が押印・サインするなどして参加していない職員も共有できる体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修会や老人福祉施設協議会を通じて、他事業所の職員と意見交換を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者や家族に事業所を見学してもらい、相談し、納得の上でサービスの利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から野菜の皮の剥き方や畑での輪作に適さない作物の種類を教えてもらうなど、共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の行動や表情などから一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、利用者本位に対応を検討している。喫煙は決められた場所で楽しめるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の意見、職員の気付きなどを反映して、よりよく暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、作成している。また介護計画の内容を本人や家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて定期的に見直している。また利用者の状態に変化があった場合などには、現状に即した新たな計画を随時作成し、本人や家族に説明して同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられており、家族と相談して通院や受診に付き添うなど柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医と情報交換を行うなどの協力関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に利用者や家族、かかりつけ医などの関係者間でよりよい支援方法について話し合い、方針を全員で共有している。また終末期対応マニュアルも作成している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内でプライバシー保護・個人情報の取り扱いについて研修し、言葉かけや対応方法、記録類の取り扱いなどを周知し、徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースや希望、体調に合わせて、洗濯物たたみや散歩に誘うなど、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が作った野菜を収穫して使ったり、利用者の力に合わせて配膳を手伝ってもらったり、楽しい雰囲気の中で一緒に準備や食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望にそって入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる方には言葉かけや職員を交代したり、他のユニットの浴室を利用するなどの工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや畑仕事など、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を見出し、喜びや張り合いを実感できるような場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食やドライブ、買い物など日常的な外出支援を行っている。また家族と相談しながらお墓参りに行くなど、利用者一人ひとりの希望にそった支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、さりげなく利用者の行動を見守り、外に出そうな時には一緒について出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。また年2回、利用者も参加して避難・消防訓練を実施し、消防署員から消火器の使い方の指導を受けており地域住民の参加もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内の管理栄養士が立てている。また食事・水分摂取量を記録して必要な量が摂れているか確認するなど、利用者一人ひとりの状態や力に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が自ら山に入って採ってきた素材で生け花を生けたり、玄関やフロアに植物や飾り付けなどをして季節感を取り入れるなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや写真など家で使い慣れた好みものを持ち込み、利用者一人ひとりに合わせた居室がつくられ、居心地よく過ごせるようになっている。		